

支え合いマップ 聴取項目集

ワークシート付き

住民流福祉総合研究所 (木原孝久)

350-0451 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷1476-1

電話 049-294-8284

ホームページ <http://juminryu.web.fc2.com/>

本冊子の活用法

(1) 支え合いマップづくりの「常備品」。

本冊子は、支え合いマップづくりの際、どのようなことを聴取したらいいのか、また聴取の重要ポイントや留意点は何かを、テーマ別にまとめたものである。

(2) ワークシートとしても使える

聴取項目を並べただけでなく、聴取によって出てきた事実を書き込めるワークシートも用意してある。

(3) 聴取の前にしっかり目を通しておく

ここには聴取する場合にどんなことを相手に確かめたらいいのかが、必要にして十分入っているので、聴取前に、きちんと目を通しておいていただきたい。こういう準備をしないで、ぶっつけ本番で聴取に向かっても、期待したような事実は見つからない。

(4) 「こんなことはありませんか？」と相手にぶつけるタネ

聴取というのは、ただ待っていれば、相手からいろいろ興味ある事実が提示されると言った、甘いものではない。相手はなるべくしゃべりたくないと思っているから、こちらから「こんなことはありませんか？」と具体的なことをぶつけていかないと、何も出てこない。その場合の「こんなことはありませんか？」とぶつける具体的なタネがこの冊子には満載されているのだ。

必要な場面で必要なタネが、当意即妙に思い浮かぶには、これらのことが既に頭に入っていなければならない。

(5) 福祉の本来のあり方が腹に入っているか？

これらの様々な聴取の項目の底にはすべて、本来の福祉のあるべき姿が貫通している。どんなに重い要介護になっても、住み慣れた家や地域でその人らしく生きていけるように支援すること、である。だから、これらのことを聴取する時、常にこのこと、理念を頭に入れておかねばならない。「要援護者のお楽しみは何か」という質問項目があちこちで出てくるが、それはそういう理念から出て来ているのだ。

<目次>

- ①一人暮らし高齢者< 4 >
- ②引きこもりの人< 8 >
- ③高齢者のみの世帯<10 >
- ④要介護の母と息子の2人暮らし世帯< 1 2 >
- ⑤高齢者施設の入所者< 1 4 >
- ⑥デイサービス利用者< 1 6 >
- ⑦在宅の要介護者< 1 8 >
- ⑧認知症の人< 2 0 >
- ⑨障害児者< 2 2 >
- ⑩「迷惑な住民」< 2 4 >
- ⑪その他の「気になる人」< 2 6 >
- ⑫ふれあいのご近所づくり< 2 8 >
- ⑬住民の生活環境< 3 0 >
- ⑭ご近所福祉推進体制づくり< 3 2 >

(1)一人暮らし高齢者

チェックポイント	
①	<p>向う三軒で日常的に見守っているか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日々誰かが見守っている状態が理想。 ■見守りにはいろいろな方法があるので、見逃さないように。
②	<p>本人も見守られ努力をしているか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「〇〇時以降、家に明かりがつかないなと思ったら気を付けてね」などと。 ■自宅に周りの人を招きよせている一人暮らしの人がいる。
③	<p>一人暮らし同士が見守り合っているか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■特に女性は3，4軒で固まっていると、必ず助け合うからマーク。 ■近くにいる男性をどう面倒見ているかも注視する。
④	<p>困り事の解決も支援しているか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ただの見守りでは仕方がない。一人暮らしなら沢山の困り事があるはず。 ■その困り事に関わっている隣人はいるか？
⑤	<p>男性の一人暮らしに要注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ■心配なのは女性よりも男性。まず男性をマーク。食事はどうしているか。 ■孤立死するのは5，60代の男性だ。元気だからと言って見逃さない。 ■超高齢男性も、食事や家事、運転などに気を付ける。
⑥	<p>お楽しみを持つなど、高齢期を豊かに生きているか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ただ安全を守るだけでなく、高齢なりに豊かに生きているかも大切。 ■豊かさダイアグラムに載せ、豊かさ満開への課題を抽出しよう。

(1)特に気になる人を絞り込む。

一人暮らしの人は多いので、すべての人に関心を持つのは不可能。それよりも特に注意すべき人を絞り込み、丁寧に聴取する方がいい。

- ①超高齢の人（90代）。食事はきちんと作っているか。まだ運転をしているか。
- ②男性。50～60代に孤立死が多いので、この世代からマークする。
- ③認知症など要介護で頑張っている人（大抵は女性）。
- ④引きこもりの人（男性に多い）。

(2)周りの人の見守り方<事例>

そのご近所特有の見守り方があるから、それを探し出すこと。例えば…

- ①隣の人が車の出入りや明りの点灯、カーテンの開け閉め等で
- ②本人が散歩しているのを見守る
- ③グランドゴルフで仲間が安否確認
- ④畑で隣り合った人が安否確認
- ⑤子供が毎日携帯電話で交信

(3)見守られ上手さんのやり方

見守られ上手さんもいるので、探し出し、そのノウハウを引き出す。それを整理すれば、そのご近所の一人暮らし高齢者に参考になるはず。例えば…

- ①「夜中に電気がついていたら気を付けてね」と隣家をお願い
- ②出かけるとき隣家に鍵を預けて留守中のことをお願い
- ③今までと違った行動をとる時は隣家に知らせる
- ④集会などに積極的に参加して見守りをお願い
- ⑤周りの人を自宅に招いて普段の見守りをお願い

(4)見守り人を探し出すコツ。

「見守っている人は見当たらない」と簡単にあきらめない。見守る人を探すコツは

- ①当人のごく近くに住む人に聞くこと。ちょっと離れると見えなくなる。
- ②見守る人はいないが、接点にいる人ならいる。まずその人を探す。その中で見守ってくれている人がいる可能性もある。(診療所、コンビニ、銭湯、スーパーなど)
- ③引きこもりの人も、二人ぐらいいは見込んだ人がいるものだ。
- ④たくさんの人の情報を集める。その中に知っている人がいるかもしれない。

(5)一人暮らし高齢者（女性を中心に）の困り事対応<事例>

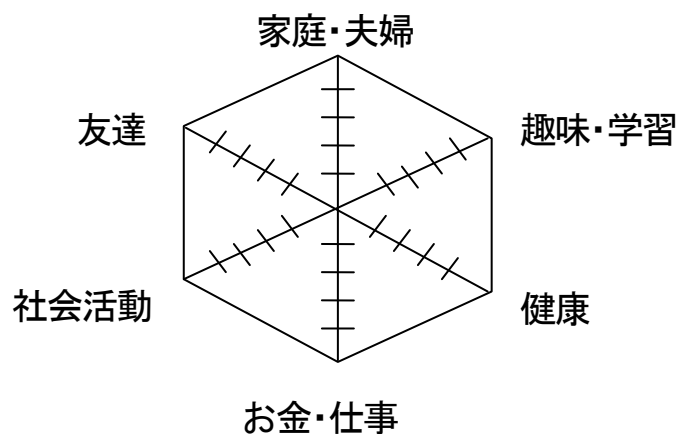
特に女性の場合は、男の仕事もしなければならないので大変。困り事は一見、何もないようでも、じつはたくさんあるのだ。世話焼きさんが実際に面倒を見ているので、困り事を知っているはず。困り事対応と言えば…

- ①代わりに犬の散歩。②重い荷物を運ぶ。棚から降ろす。③電燈の球の取り換え。家屋の修理。④回覧板を代読。⑤除雪。除草。庭木の剪定。⑥買い物、通院等の移送。⑦投薬管理。⑧食事作り。⑨デイサービスへ出かける準備

(6)豊かさのダイヤグラムに乗せてみよう。

福祉がめざすのはただ安全を守ることだけではない。その人なりに充実した生活ができることが本当の目的だ。ここに豊かさのダイヤグラムを提示しよう。これに乗せてみて、項目別に今の充足状況をチェックし、課題を抽出する。

- ①「以前はやっていただけ、もうやめた」という人は、それを再開させる。
- ②簡単に「できない」とは言わない。這ってでも畑に行きたいという人もいる。
- ③本人は一見やる気がなさそうだが、本音はそうでもない。強引に引っ張り出す。
- ④ただ趣味があるだけではだめ。それを生かして人の役に立ち、仲間を増やし、できれば収入にもなる、という風に、六つの要素がすべて満開になるのをめざす。
- ⑤引きこもりの人も、付き合いづらい人も、趣味からアプローチすれば反応する。
- ⑥問題を解決することよりも、豊かさ満開にしてあげるのを目指す。結果として問題も消えていくこともある。



①気になる人 気になること	②見守っている人 本人が見込んだ人、接点の人	③本人の見守られ努力

④困り事	⑤本人のお楽しみ事 以前に楽しんでいた事	⑥全体の対策

(2)引きこもりの人

チェックポイント	
①	<p>本人が接触している人や所属する組織を発見できたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■どんなに引きこもりでも、二人ぐらいいは見込んでいる人がいる。 ■以前に交流のあった人、所属していた組織があるはず。
②	<p>本人の様子を見守り、安否確認をしている人はいるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■接触はできないが、見守るぐらいならできる。その人は誰か。 ■どこかに出かけているはず。そこで誰かと接触している。それは誰か。
③	<p>趣味など本人がこだわっている対象はないか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■誰でも何らかのお楽しみを持っている。 ■こだわりの対象で本人に見込まれた人はいないか。釣り仲間とか。
④	<p>何か生活上の困り事はないだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■毎日、コンビニ弁当で間に合わせていないか。ゴミ屋敷になっていないか。 ■困りごとに対応しようとするれば、反応する可能性もある。

(1)とにかく本人のお楽しみ事を探し出せ！

前項で述べたように、引きこもりを直接解消させようという作戦はうまくいかない。本人がこだわっているものを探し出し、それに乗る方が効果的だ。だから本人がこだわっているもの、お楽しみの対象は何なのかを探る。

(2)見込まれた人を通して接触すること。

どんなに引きこもりの人でも必ず2～3人の接点が見つかる。その人を見つけたら、その人を通して接触すること（間接接触）。

(3)ケアマネジャーやヘルパーが入っている場合、その人が仲介役を。

何らかの意味で要援護状態なら、ケアマネジャーなどのプロは入っているはずだ。そのプロがどういう役割を果たせるかを考える。住民と仲介する役を担ってもいい。枠外のニーズを把握しているはずだから、それを住民に知らせるだけでもいい。

①引きこもりの状況 なぜそうなった？	②接触している人 本人が見込んだ人、接点の人	③本人の困り事

④お楽しみ こだわっていること	⑤困り事やお楽しみに 関わっている人	⑥関わり方

(3)高齢者のみの世帯（老々世帯）

チェックポイント	
①	子どもが近居していないか？ ■または頻繁に通ってきているか。生活の面倒を見ているか。
②	夫婦で、またはどちらかが引きこもっていないか？ ■隣人を自宅に引き入れているか。
③	夫婦共に、またはどちらかが病気、障害、要介護でないか？ ■夫は妻をきちんと介護しているか。虐待は？周囲の支援を求めているか。
④	夫婦で一緒に地域参加をしていないか？ ■特に夫が地域デビューしていないか。 ■夫婦で同じ趣味を持っていないか。同じグループに入っていないか。

(1)老老介護になった時、気になること－夫が妻を囲い込み。

高齢者夫婦でも大部分は2人とも元気で何も問題ない。しかしその後妻が要介護になり、夫が介護することになった時に問題が生じる。介護はできるのか、それ以前に食事等の家事ができるのか。

心配なのは、介護に疲れたとき周りに支援を求めることができない点だ。そこで二人とも元気なうちに、夫は地域の人と仲良くしておく。

妻と同じグループに属しておくこと。それができれば、妻を介護するときに周囲からの支援を拒まなくなるし、妻の知人・友人が支援に来て受け入れる。夫が遺されたときも、役に立つ。

(2)家に隣人を引き入れる。

夫が妻を介護するときに必要なのは、隣人を自宅に引き入れることだ。実際に介護が始まってしまったら、それができない。二人が元気なうちに、隣人を家に引き入れることをやっておく。隣人も積極的に入っていくことが大切だ。

(3)介護者の夫も、要介護の妻も、豊かさダイヤグラムに載せよう

一人暮らしの高齢者と同様に、要介護になっても、妻を介護する場合も、豊かさ満開をめざす必要がある。2人の「こだわり」を見つけ、支援しよう。

①老々世帯一般 数や分布状況等	②地域デビュー状況 特に夫。妻が支援を？	③対策

①老老介護のケース 生活や介護の状況	②周りの支援状況 地域グループへの参加	③今後の関わり方 こだわりへの支援等

(4)要介護の母と息子の2人暮らし世帯

チェックポイント	
①	母親が病弱または障害、要介護ではないか？ ■自分で生活の用を足せるか。息子の手伝いが必要か。認知症は？
②	息子の介護負担がきつくなっているか？ ■虐待やネグレクトの恐れがないか。母親が虐待を隠そうとしていないか。
③	隣人が見守ったり、支援で関わっていないか ■息子が支援の手を拒否していないか。
④	地域のグループに参加していないか？ ■ミニデイなどに母親を参加させていないか。 ■同じ状況の人(息子同士)と交流しているか。
⑤	母および息子、それぞれのお楽しみは？ ■ストレスを発散させる趣味などがいないか。グループに参加していないか。
⑥	息子が仕事を持っているか、母の年金頼りか？ ■母が亡くなった後、生活はどうするのか。

(1)母親が要介護になった時、「虐待」の危険が。

母親が元気なうちは、息子の負担も少ないから心配ないが、母親が要介護になったり、特に認知症になると虐待の危険が出て来る。

(2)まず母親を地域に引っ張り出す。

母親と息子が狭い、密室の空間で、一日中いるから危険が生まれてくる。そこで母親をサロンなり、ミニデイに引っ張り出すことが必要になる。

(3)ストレス解消にお楽しみづくりを。

息子のストレスも溜まっているだろう。彼の元々の趣味は何だったか。それを介護中でも続けられないか。続ける方法を考えよう。同じお楽しみを持った仲間はいないか。

①母の体調 年齢・要介護度・病気	②息子の状況 介護疲れ・虐待・ひきこもり	③周りの支援状況

④母と息子のお楽しみ 趣味・仕事・以前のも	⑤周りの支援状況 地域グループへの参加	⑥両者への関わり方

(5)施設入所者

	チェックポイント
①	1つのご近所内で何世帯の人が高齢者施設に入所しているか？ ■入所者が異常に多い場合はその理由・背景を探る。 ■「空き家になっている家」の中に施設入所者がいる。
②	家族や近所の知人や友人が施設を訪問しているか？ ■自宅から近くの施設か遠い施設かによる。
③	ときどき「里帰り」ができていますか？ ■施設がこれを応援しているか。家族が里帰りに協力的か。
④	近所のグループやサロンに受け入れられているか？ ■自宅でなく地域のグループに里帰りしているか。グループが協力的か。

(1)入所したら「一件落着」ではない。

ご近所の人が施設に入所したら「一件落着」と思ってしまう。しかし誰でも住み慣れた自宅や地域で生きていきたい。それが叶わなくなった人に対してできる事は、せめて里帰り。または地元グループに参加できること。これをどう実現できるのか。

(2)「そろそろ入所」の話が出ている家はあるか？

既に入所してしまったら、また自宅に戻るといのは極めて難しくなる。まだ在宅だが、そろそろ施設入所の話が出ている家、というのがあつた。この人を入所させずに済むにはどうしたらいいかを考えるのも大切なことだ。

①入所者 年齢・要介護度・種別	②里帰り 本人の希望・家族の意向	③地域の受け入れ 老人クラブ、サロン・隣人

④本人のお楽しみ 趣味・仕事・以前のも	⑤施設への訪問 家族・知人・老人クラブ等	⑥今後の関わり方

(6) デイサービス利用者

チェックポイント	
①	<p>1つのご近所で何人がデイサービスを利用しているか。</p> <p>■一つのご近所（50世帯）で4～5人が一般的。</p>
②	<p>一人ひとりのデイサービス利用の理由を調べてみよう</p> <p>■「入浴ができない」等純粹に福祉的な理由か。</p> <p>■「地域がつまらないから」といった他の理由か。</p>
③	<p>地元のグループやサロンに受け入れられているか？</p> <p>■デイを利用するようになると、地域グループやサロンが受け入れなくなる。</p>
④	<p>利用しない日にも事業所は何らかの関わりをしているか？</p> <p>■デイを利用するのはわずかに週に一回か二回。ほとんど地域にいる。その人に地域で関わるができないのか。</p>
⑤	<p>地域社会でミニデイサービスを実践してはいないか？</p> <p>■ふれあいサロンをミニデイに昇格させられないか。</p>

(1) 地域が貧しいとデイが繁盛する？

サロンや井戸端会議があちこちで開かれていたり、趣味活動が盛んなご近所ではデイサービスの利用者は少ない。

(2) サロンや趣味グループに受け入れられている利用者はいるか？

「要支援」「要介護」の人が地域のふれあいの輪に入れてもらえれば、それが生活支援や介護予防になる。

(3) 住民によるミニデイを応援したり、デイの出前をyddたりは？

ご近所でミニデイをしていないか。それにデイサービスセンターが支援していないか？ デイサービスセンターがサテライトデイ（出前）をご近所に出かけてやれるか？

①デイ利用者 年齢・要介護度・利用の理由	②ふれあいへの受け入れ サロン・老人クラブ等	③地域の豊かさ度 ふれあいやお楽しみがあるか

④本人のお楽しみ 趣味・仕事・以前のも	⑤「卒業」の可能性 利用回数は減る・増える	⑥今後の関わり方

(7)在宅の要介護者

チェックポイント	
①	<p>ご近所が介護者を支援しているか？ ■それ以前に家族はご近所の支援を受け入れるか。</p>
②	<p>ご近所で介護している者同士が助け合っているか？ ■愚痴を言い合う程度でもいいから、やっているか。</p>
③	<p>要介護者や要介護者の豊かな生活を支援しているか？ ■地域グループが介護者や要介護者を仲間に受け入れていないか。</p>
④	<p>ケアマネやヘルパーがご近所の協力を求めているか？ ■同じご近所に住むヘルパーがそういうことをやっていないか。</p>
⑤	<p>ご近所の元看護師が介護家族の相談に乗っていないか？ ■ご近所に住む元看護師が介護家族の相談に乗っているケースがある。</p>

(1)だれかが介護者支援に動いている。それを探せ。

丁寧に探せば、実践者が見つかる。

(2)「ひらいた家族」をさがせ。そこを突破口に。

まず介護者がオープンになるかがカギになる。そういう家庭が1軒はないか？

(3)ご近所の介護者どうしがつながっていないか？

介護者がどこかの家や店などで愚痴り合っているというのなら、いるはずだ。

(4)介護経験のある人たちが何等かの行動を取っていないか。

肉親を介護した経験のある人や、元看護師、ヘルパーなどを合わせると一つのご近所に10名ぐらいいる。この中の誰かがご近所で介護支援や相談をしているはず。

(5)要介護者も介護者も「その人らしく」生きられるよう。

それが可能になるヒントをマップ作りの場でも探さねばならない。

①要介護者・介護者 要介護度・サービス・家族状況	②地域の支援状況 枠外のニーズや家族向けに	③本人・家族の生きがい 過去の方も

④地域グループへの参加 本人と家族	⑤今後の関わり方	

(8)認知症の人

チェックポイント	
①	認知症のことを家族はオープンにしているか？ ■本人はどうなのか。
②	認知症の人・家族にご近所は積極的に関わっているか？ ■誰と誰がどのような関わりをしているか。
③	徘徊中の認知症の人を見守ったり、受け入れる家（店）はあるか？ ■その人たちはどのような関わりをしているか。 ■見守りのネットワーク（らしきもの）ができているか。
④	認知症の人をサロンやゲートボール等に受け入れているか？ ■認知症の人が積極的に参加しようとしているのか。
⑤	認知症の人同士、家族同士で交流したり助け合っているか？ ■それを応援、支援する人やグループがあるか。

(1)身内の認知症をオープンにしているか？

この家を突破口にして、ご近所中にひろげていけばいい。

(2)認知症をタブー視したり、迷惑がる雰囲気がないか？

マップづくりの場で認知症をまだタブー視する雰囲気があるか？ 認知症の人がいる家を指すのを躊躇しているか？ 認知症の存在を迷惑視する傾向はないか？

(3)認知症本人にとっての庇護者は？

本人は、徘徊しながら、自分にとっての庇護者を探し求めている。本人が見込んだ相手を探す。

(4)認知症サポーターにふさわしい人を探せ。

ご近所内にサポーターの資質を持っている人がいるはずで、それを探せばいい。その人は足元でどんな役割を果たしているかを調べ、改めてサポーターの研修を受けてもらうのだ。

①本人と家族の状況 進行・隠すか・介護状況	②徘徊と支援・見守り 見込まれた人・接点の人	③本人のお楽しみ 過去の分も

④地域グループへの参加 本人と家族	⑤今後の関わり方	

(9)障害児者

チェックポイント	
①	家族は障害の子を隠したがつているか？ ■普通の学校に通わせているか。子ども会に入れているか。 ■地域グループに参加させているか。
②	ご近所の人と交流ができていますか？ ■ご近所の人を家へ迎え入れているか。ご近所の人も訪問しているか。
③	障害を持つ者同士、ご近所で交流しているか？ ■親同士のグループもできていますか。
④	地域のグループに受け入れられているか？ ■子ども会は障害児を受け入れているか。■青年団、消防団などにも。
⑤	周りの者や関係者が本人のお楽しみや能力を開発しているか？ ■地域の企業や学校、障害児施設等がその才能を活用しようとしているか。

(1)ご近所とのつながりの線が1本でもあるか？

障害児者を支え合いマップにのせると、ご近所とのつながりの線がほとんど引けない。つながっているケースが見つかったら、どうして可能になったかを調べる。

(2)子ども会などに受け入れられていないか？

障害児は子ども会にも受け入れられていない場合が多い。たまたま受け入れられている事例が見つかったら、それがどのようにして実現したのか、その理由を探る。

(3)「ご近所雇用」の可能性はないか？

あるご近所では、知的障害の男性に、各家庭が耕作や草取りなどの「仕事」を依頼していた。ご近所雇用である。こうした可能性はまったくないか？

(4)グループホームなどの施設とご近所の関係は？

ご近所にグループホームや授産施設がある場合がある。その授産施設等の関係者が本人とご近所の仲を取り持つ事例はないか？ その可能性はまったくないか？

①本人と家族の状況 学校・仕事・障害・年齢	②地域との交流 子ども会・青年団へ加入は？	③障害者同士の交流

④お楽しみ・能力開発 本人と家族	⑤今後の関わり方	

(10) 「迷惑な住民」

チェックポイント	
①	ゴミ屋敷、騒音を出すなどご近所に迷惑をかけている人は？ ■暴言を吐く。鉢植えを道路に並べる。ラジオを大音量で聞く。 ■その人に上手に対応している人はいないか。そしてその方法は？
②	その人に接触できている人、その人が見込んでいる人は？ ■その人と接点にいる人は誰と誰か。 ■その人はなぜ本人に見込まれているのか。
③	その人は何に困っているか？ 生活福祉課題は何か？ ■困りごとの解決を本人が周囲に訴えたことがあるか。 ■かつてその問題解決に関係者が関わったことがあるか。その人は誰か。
④	その人がこだわっていること、楽しみ事は何か？ ■その人と同じ楽しみ事を持っている人はいるか。 ■そのグループに以前、参加していたことがあるか。

(1) 「迷惑な人」も「人間らしく生きるのを阻まれた人」と。

私たちは、「ゴミ屋敷」に住んでいるような人を「困った人」とだけ見ている。迷惑な住民、という意味である。しかし、その人にもそうなる事情があるはずだ。「福祉」の世界では「迷惑な人」という考え方はない。それらの人も含めて「人間らしく生きるのを阻まれた人」がいるのみである。

(2) その人の側から、解決策を考えてみる。

その人の側から見て、どんな問題が解決されれば「困った」状態を解消できるのか—それを探る必要がある。だれの言うことになら耳を傾けるのか—その人と接点になっている人を探ること。

(3) 本人がこだわっていることに乗って見たら？

本人は何かにこだわっている。それに乗るのだ。私たちはどうしてもその人の問題に執心しがちであるが、本人はそのことには触れてもらいたくないと思っている。本人のお楽しみに乗っているうちに、自然に問題の方も解決するのではないか。

①迷惑な人 迷惑の内容・程度	②本人の意図は？ 迷惑かける理由	③本人はどうしたい？ 本人なりの解決努力

④本人のお楽しみ こだわっていること	⑤周囲の解決努力	⑥解決策

(11)その他の「気になる人」

チェックポイント	
①	<p>子どもに引き取られて行った人は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■特に要介護になって引き取られて行った場合、誰が介護しているか？ ■新しい地域で孤立していないか。元の家に戻りできないか。戻れないか。
②	<p>昼間一人暮らしの老人はいるか？（特に要援護状態）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■同居している人がいるのかいないのか判然としないケースもある。 ■同居していても、別棟に住んでいて、親の生活状況を把握していない子も。
③	<p>夫婦で別々の施設へ入所させられている人は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■夫婦の一方が自宅で一人暮らしというケースも。
④	<p>年老いて（畑）仕事も楽しみもやめさせられた老人は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■その結果、早々と認知症になったというケースもある。
⑤	<p>次々と介護の役割が巡ってきている主婦は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大事な時期が介護で埋まってしまっている人の人生をどう考えるのか。
⑥	<p>障害の子どもを複数人抱えて年金暮らしの女性は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■子どもたちが母親の年金を当てにしているケースが増えている。 ■しかも子供が知的障害、身体障害、精神障害かまたは引きこもり。
⑦	<p>もう 50 代になった未婚の男性は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■むろん結婚するかどうかは本人の意思だが。 ■結婚したいけどできない場合、せめて異性と交流できる機会は作れないか。

(1)そのご近所に特有の「気になる人」は？

例えば、前述の未婚の男性がご近所に十数名もいるというケース。婚活というよりは、異性との自由な交流ができないかといった別の課題が出てくる。

(2)推進者や家族の目でなく当人の目から見る。

「息子に引き取られた人」は「よかったじゃないの」と喜んであげるだろう。しかし本人は「泣きの涙で」息子のところに行っているかもしれない。

①	②	③

④	⑤	⑥

(12)ふれあいのご近所づくり

チェックポイント	
①	<p>ご近所の各所で井戸端会議が開かれているか？</p> <p>■井戸端会議に参加している人は。ゴミステーション、自宅、畑、辻など。</p>
②	<p>お互いに自宅を開放しているか？</p> <p>■人を家に入れる地域か、入れない地域か。要介護者のいる家かどうか。</p>
③	<p>有志たちでふれあいサロンが開かれているか？</p> <p>■ご近所ごとに開かれているか。そこに要援護者も加えているか。</p> <p>■町内圏域のサロンではご近所ごとに二次会が開かれているか。</p> <p>■そこで出された福祉ニーズに対応しようとしているか。</p>
④	<p>要援護者宅でサロンや井戸端会議が開かれていないか？</p> <p>■認知症の人の家、一人暮らし高齢者の家など。</p>
⑤	<p>趣味などのお楽しみのグループが多数あるか？</p> <p>■そこに要援護者も仲間入りしているか。</p>
⑥	<p>ご近所特有のふれあいが行われているか？</p> <p>■ガーデニング仲間、犬の散歩仲間、ラジオ体操の仲間、家庭菜園の仲間。</p> <p>■そこに要援護者も仲間入りしているか。仲間が困ったとき助け合うか。</p>

(1)ふれあいの豊かさは助け合いの条件の1つ。

ご近所でふれあいが盛んであるかどうかは、助け合いが行われる大事な条件の1つ。ふれあいが豊かなご近所では、デイサービスに行く人が少ない。

(2)困ったとき助けてくれるサロンか。要援護者を入れているか。

ただふれあっていれば助け合いは自然に始まるだろうと思っている人がいるが、そうではない。ふれあいの場で助け合いをしてみたら、絆がさらに強まるのだ。

(3)そのご近所に特徴的なふれあいを探せ。

ふれあいはこの地区でも行われている。一見、ふれあいはないように見えても、何らかの形で行われている。それを見逃さないようにしなければならない。

①	②	③

④	⑤	⑥

(13)住民の生活環境

チェックポイント	
①	<p>買い物、通学、文化活動などで不便事はないか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■移送サービスやおすそわけを個人的にやっている人は？ ■ご近所ごとに住民の集まれる場、趣味を楽しめる場があるか。
②	<p>災害時要援護者と支援者を特定したか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■未登録の人はまだいるか。未登録者の支援者を確保したか。 ■班ごとの避難支援体制を作ったか。
③	<p>過疎化で町が消滅の危機に瀕していないか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■若者が戻ってきていないか。 ■集落の活性化のヒントは見つかったか。 ■残された高齢者でどのように助け合っているか。
④	<p>空き巣などの犯罪の被害に遭っていないか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■住民が連帯して空き巣撃退をしているか。
⑤	<p>集落に子供がわずかしかいない。どうする？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■子ども会組織はもうやめてしまったか、継続しているか。 ■ご近所単位に子ども会を作っていないか。
⑥	<p>新旧住民の交流がいまいち。どうする？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■交流を仕掛けている人はいないか。その人はどういうことをしているか。

(1)生活問題もまた「福祉」問題の1つだ。

今の福祉問題とは、ただ特定の要援護状態にある人の問題だけでなく、私たち普通の住民の生活上の諸問題も、これに含めるようになっていく。

(2)一般住民の不便事は要援護者には死活問題。

一般住民の生活上の困り事が、要援護者には増幅されて重大な福祉問題になる。

(3)あきらめてしまうと、「困り事はない」となる。

住民に「生活上不便なことは？」と聞いても、「ここはいい所だよ」と答える。

①	②	③

④	⑤	⑥

(14)ご近所福祉推進体制づくり

〈ご近所福祉推進の中核者を決める〉

ご近所福祉を推進するには、まず推進者数名を探さなければならない。大事なものは、肩書きのある人とか、組織のリーダーをしている人よりも、実際に足元の隣人の世話を焼いている人を探すこと。マップをつくれれば、その違いが見えてくる。

そのご近所が存在する自治会（町内会）の役員や民生委員は、直接ご近所に関わるのではなく、できるかぎりご近所福祉推進者を後押しする役に下がる。

	人（所属組織・連絡先）	協力者（同）	役割分担・活動領域
①			
②			
③			
④			